

平成29年度 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

平成30年3月

	1	2	3	4
項目	学習指導について	生徒指導について	進路指導について	特別活動について
重点目標	組織的な授業改善が図れるよう指導体制を支援する。	自転車事故の未然防止	生徒の進路意識の高揚を図り、希望進路の実現を目指す。	「文武両道」、「自主自律」を体現するための支援の充実。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 研修講座の案内については、有益な情報を発信し、周知徹底を図った。 研究授業を5月と11月の年2回実施した。特に11月は外部から来賓を招き、全体会では活発な意見交換を行った。 授業アンケートはマークシートの発注段階から企画し、年2回実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に1ヶ月間、うぐいす坂の自転車乗り下り禁止期間を設け、交通安全に対する意識高揚を図った。 これまで秋田東警察署員を講師に開催していた交通安全教室を、一般社団法人日本自動車連盟の協力を得て開催した。 生徒会企画の交通安全教室を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 北雄合宿、進路適性検査、各学年針路講演会、東北大出前講座、学部学科ガイダンス、羅針盤等の進路意識高揚と情報提供の事業を実施した。 大学入試分析会、進路検討会、出願検討会等の生徒の学力状況把握と共有事業を実施した。 実力テスト、各種模擬試験、トップレベルチャレンジ、講座等の学力向上事業を実施した。 職員研修等の高大接続改革に関する情報の収集と共有活動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ年間計画通りに実施されたが、「LHR」での担任裁量時間が不足している。「総学」においても「知の探究コンテスト」に向けた活動時間が不足した。 各部とも「文武両道」「自主自律」の精神のもと、計画的に活動に取り組むことができた。 生徒会執行部による各種大会に向けた壮行会や、野球・ラグビー部の試合での全校応援など、大きな盛り上がりを見せた。
達成状況	授業改善をテーマに、11月の研究授業を活動の中心にして行った。当日は十数名の来校者があり、6教科の授業を公開して、その後の全体会で多くの改善点を共有することができた。こうした成功の背景には校長先生が企画した「授業改善強化月間」の働きかけが大きい。また、授業アンケートでは、授業プリント、視覚教材、週間テスト、確認テストにも言及し、生徒の進路達成の視点から調査・集計を行った。	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生件数を過年度比較すると、目標を達成したとは言えない。事故の内容を分析すると、生徒側に非が認められない被害的事故（10件）が多かったことが特徴である。 校門前の一時停止や並列運転などルールやマナーを遵守できない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年において、羅針盤や各種ガイダンス、進路講演会を中心とした情報提供や啓蒙活動が適切に行われている。 校外模試やセンター試験後の分析と課題の洗い出し、職員研修、企画研修部の授業改善月間や授業評価アンケート等との連動により、難関大合格を目指した授業改善が進んでいる。 共通テスト、英語4技能、新しい調査書の作成等、高大接続改革に関する職員研修や情報提供が適切に行われた。 保護者アンケートを見ると、進路に関する好意的な意見が90%に迫っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「知の探究コンテスト」は今年度も充実した内容で実施することができ、外部から高い評価を得た。 体育館や各部室における施錠・消灯など徹底することができなかった。 運動部では、全国総体に6部15名が出場した。文化部では、7部24名が全国大会へ出場した。
評価	A	A	A	A
次年度への改善策	<ul style="list-style-type: none"> 文科省などの教育機関から発信される情報をタイムリーに提供していきたい。 『授業研究』冊子の編集業務の軽減と費用削減について、今後も継続して取り組んでいきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会企画の交通安全教室は継続して取り組みたい。事後アンケートの結果からも高い評価がうかがえる。生徒の自主企画であることの意義は大きい。 交通ルールの遵守は絶対的なものであり、状況に応じて規制的な取り組みを導入する必要がある。 	<p>志望校達成のための進路事業の検証と授業改善について、検討の余地がある。学年や教科との連携、職員間での生徒や授業の把握、情報共有の徹底が求められる。高大接続改革に係る共通テストや新調査書等への対応には、情報の収集と周知に一層の継続と徹底が必要である。</p>	<p>「知の探究コンテスト」は、探究活動として総学の時間を活用して実施される予定であり、その取り扱いについて検討が必要である。また、この内容と関連して、LHRを本来の学級活動に使える時間としてより多く確保したい。</p>
学校関係者の御意見・御感想及び評価	<ul style="list-style-type: none"> 11月の研究授業（校内研究会）、授業改善強化月間の指針等、確実に学習指導改善のための方策が実施されていると考えます。 一部自己評価にBはあるものの総じて目標を達成したと評価できる。 授業改善強化月間の設定などの研修の場を通して、教師の授業力向上や教師間の協力体制、チーム力を高める取組がなされている。その内容の充実にも努力の跡が見える。校内の優れた人材を講師として活用したり、附属中学校の授業を参観して事後に伝達・情報共有の場も設けたりしている点を高く評価したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 入学時、新入生に対して、自転車の安全運転について徹底指導が必要。 先生方の丁寧なご指導によって、成果が上がっていると思います。自転車事故は19件ありますが、重大な事故になっていないのは指導の成果と考えます。 自転車事故防止のためにはもう少し根本的な生徒の意識改革が必要と思われる。例えば、点数制を設けて自動車免許のように事故や交通マナー違反の多い生徒に対しては自転車通学を一定期間禁止するとか、生徒の安全、安心に関することに対しては高校生と言えどもある程度の強制力があってもいいと思います。 広い意味での安全教育、倫理教育のなかで、個別項目としての自転車問題を位置づけて教育すべきではないか。労働局の安全監督官の講話を受けるなど工夫が欲しい。 重点目標を自転車事故未然防止にしばって指導を徹底した努力は十分に認めたい。しかし、生徒指導の重点目標が1項目であることはいかかなものか。生徒を取り巻く課題は、基本的な生活習慣の定着、不登校やいじめへの対策、問題行動への指導等、学校がやるべきことは広範囲に及ぶ。家庭との共通理解を図り連携しながら指導の継続を図ってほしい。 生徒の自覚を徹底するのは非常に難しいと思いますが、引き続き指導をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試に関して、指定校推薦やAO推薦に対しての指導をより早く行う。 戦略的でキメ細かな進路指導が展開をしていることがわかります。成果を上げていると思います。 せっかく多くの優秀な卒業生を有名大学に進学させているのだから在校生やその父兄に対してもっと東大や東北大以外にもキャンパスを見せたりOBの話聞く機会があっても良いと思います。 自己評価を見る限り、目標は達成しているものといえる。しかし、何故そこを目指すのかという目標を明確化できているのか。人の生き様のかでの進路をアドバイスできているか。 生徒一人一人の自己実現に向けて進路に関わる指導や様々な行事等に努めていることに感謝したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方のご指導の力で、多様な活動を生徒たちが生き生きと行っていることがわかります。 かつて本校では、文武両道を声高に目標に掲げていなかった。過去を振り返っての歴史的評価をいつのころから目標にしてしまったの感もある。生徒に過度の負担を強いてはいないか、検証すべきと思う。 「文武両道」を証明する取組がなされ、生徒の意識も高いことがわかる。部活動の充実と学習時間の確保は常なる課題と思われる。今後も実態把握に努め、個に応じた指導と助言に努めて欲しい。
評価	A	B	A	A

《 評価 》 A：具体的な活動がなされ、目標を達成できた。
 B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
 C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。